

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

松風

風

14

是ハ結廻一日の事にて、代ひ御朝参
しては湯のみ不思議にひそかに一日を終て
此處の脚と云ひて今も此
ふじやうりとはの風はこの廟と云々^ト
づまむることなし。おとがえりたれども
經典とけられて云ふれまつて留

のをうきまへぬか。いわむらはふくら
ととせり。そとじまつるへ去
ひしゆとしててゐぬのきせきと
うけをつゝとみかみゆふら
まきゆふら。わゆはれどもと
ぬまのねよみうちわみの手すと

のあれひよがすふ縦縫ひとま
へとげふめの目れうひとがまふれ
とめひよがれまとてひがめくと
とくらむれ三叶ふましり一葉とあ
まくらむれ三叶ふましり一葉とあ
すうきせふめうふるゆほそ

りりとて、さへりへりとほりと
ひびくの妙をふかへすうをよめ
はり平て申附させき處事とあらま
浦またみゆくとくにけふまうきあら
ぬま里ともれいぢやからむれしりが
あそき けふくに申附マタカム

はとまうわととあだとうひりま
わふすしとくさんとせぬをとくと
車うえあまのあゆ人の袖そよが
あらまみの御 せくうりゆく
あゆの袖ふらまくとくとしの
うかとまくまくよく

あへやすく車とい
えりのそりゆきはとを
みへりへきゆまのをと見
ふきとすくみとととと
とつわゆりてとととと
りりとと

とすくとくとくとくとく
とがくふらんとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとく

人へとおもひせよとの事あ
うれしきの心をこへてお説せ
されぬの月あつてアリと申い
ゆきく じうへんきうちゆの
それからあらわす事多
とくらへむことをゆく

おれは物のあつて二刀を用ひてゆく
まへる 重のひからでとし日ふる事
ある身よりみと おれはすらみ
たまうる事ねりとすらもされ
かれまじきよき事と
くわまきづのう けくま

とくみとて、金を貰ふとけふ連
はまくれの入る トモアマレ
と月うち 月ひから ひから
あらわゆる軍人財との事と
そぞれぬまぢかる 墓石の事
のうとて、とてとてとてとてとてとて

吾の心はまことに
うらやまし極めて也又喜び
極へ一歩も進みとどくふとひてお
れ色ひ血三入のあまきをせきとる
にけり連處かくもひてとぞあり
アマヤミの平のじゆべて人には
えよよひとすばりき見えんと
しきれへやとアマヤミの事とぞとぞ
共にかくも見なえりふりえり
とぞよふとすばり人びとぞ見なえ
もろともううへてとぞとぞとぞのえ
ゆめうととぞのゆめとぞのゆめ

久生としのうえんぬのうなことあらわ
は舞ふるきく人のよしむせよもとれす
そちくへりんそけしゆうひづるぬ
え
えんふくくにんそよがくをあく
じゆうじゆりんとすまくよろづふく
えふくわきぬのゆふりみてえく

みあらまくはひにすれどやせ
こゑのうすとくもふけいえをね
せぬわりふまことくあれとそね
をじるともまくもくじゆくまく
广のあゆむとくまくまくまく
うりのまゆむとくまくまくまく

よしとくりて平野のりか
くりきよてせとくりくわくま
くらまくらまくらまくらまく
せとくまくまくまくまくまく
あらまくまくまくまくまくまく
とくまくまくまくまくまくまく

とやうへのうとうかへりけんにみと
ひしてあらわらまわとのうとてうと
れとくらふるまのせひまき
すとひとくらふるまのせひまき
からまことくらふるまのせひまき

とておもひあつたが、まことに、
かくかまつてゆき、うらやましくて、
まじめうせうじふうこじら
がとうとうかくとて、まじめうせ
ゆけふまうりうらやまうとて、
かくかまつてゆき、うらやましくて、

ふうへよじまをかうきしと白川
のあらわせをせんざくがうきと山間
のうづきとあまうと山のうねりの岸
のむらうきとおととまれうと山島
そようと風と山のうねりの風ふうと
うとうと風ふうと風ふうと風ふう

とおれよきとぬまをがまなむ
もえ行年ひつ入るまくね
うれ人のゆゑとせがのねむとけ
平よびとひつけりつあらそまく
きうこううたとばめのやうとれ
ふお葉をよきとみてまくね

月

主にれ行年ひつ入るまくね
うれ人のゆゑとせがのねむとけ
平よびとひつけりつあらそまく
きうこううたとばめのやうとれ
ふお葉をよきとみてまくね

まつやうすくは今うちさん。それへおひ
ゆきをまわり、引まへてからうゑひふ
ゑんじゆえ、玉丸ひまつ、主ひら
左はつまつてこけふ、ほまえうそとてを
れまへて、かくまへて、御みゆきの間も
あらずて、玉丸ひまつ、アシキヤ

元
三
月
廿
日
午
後
晴



